

[成果情報名]単為結果性を有し収量性、品質の優れるナス新品種「山形N1号」

[要約]「山形N1号」は、単為結果性を有するF₁品種で、商品収量は「薄皮丸なす」より多く、多収品種の「梵天丸」と同程度である。果実は、果形が“巾着形～短卵形”で果皮の着色性に優れる。漬物加工後は、外観良好で、果皮が軟らかく食感良好で、漬物加工適性が高い。

[キーワード]ナス新品種「山形N1号」、単為結果性、収量性、漬物加工適性

[担当]山形県農業総合研究センター園芸農業研究所・バイオ育種部

[代表連絡先]yenken@pref.yamagata.jp

[区分]野菜花き推進部会

[分類]研究成果情報

[背景・ねらい]

山形県在来の漬物加工用ナス「薄皮丸なす」は食味良好な品種であるが、着果が不安定で収量性が低い。そのため、単為結果性を有し、収量性及び商品果率が高く、漬物加工に適する品種を育成する。

[成果の内容・特徴]

1. 「山形N1号」は、「薄皮丸なす」（山形県在来品種）と単為結果性品種「あのみり」（農研機構育成）の交雑後代から得られた固定系統同士を交雑した単為結果性を有するF₁品種である。
2. 果実は果形が“巾着形～短卵形”で果皮の着色性に優れ、萼の下も淡く着色する。漬物加工後は色が濃く残り、外観良好である（図1）。
3. ハウス早熟栽培では2月下旬に定植した場合、3月中旬から収穫できる。単為結果性を有するため着果処理を実施しなくても着果が安定し、株当たり商品収量は「薄皮丸なす」の1.4倍程度である。障害果の発生が少なく、商品果率は「薄皮丸なす」よりも高い（表1、2）。
4. 露地栽培では5月中旬に定植した場合、6月中下旬から収穫でき、株当たり商品収量及び商品果率は多収品種の「梵天丸」と同程度である（表2）。
5. 漬物加工した果実は「梵天丸」より果皮が軟らかく、食感良好で、漬物加工適性が高い（表3）。

[成果の活用面・留意点]

1. 2023年11月に山形県奨励品種決定調査検討会で普及性が高いと評価され、2024年1月の山形県職務育成品種登録審査会を経て同年3月に品種登録出願し、同年6月17日に出願公表された。
2. 当面は本県生産者のみの栽培とする。
3. 収穫は、果実直径が3cm前後（果実重が15～35g）を目安に行った。
4. 「山形N1号」の単為結果率は、夏季高温時に低下する場合がある。

[具体的データ]

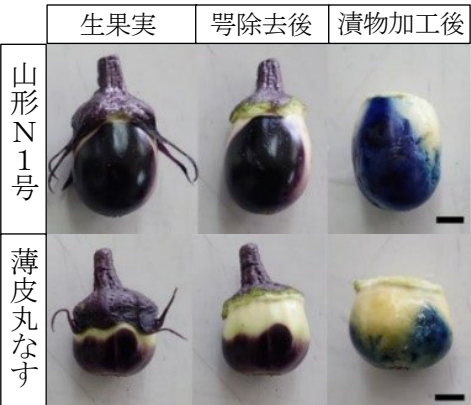


図1 果実外観（黒線は1 cm）

表1 「山形N1号」の単為結果率

栽培	調査年	期間	品種	調査 花数	正常果 (個)	奇形果 (個)	落花 (個)	単為 結果率 ^z (%)
露地 ^y	2020	6/22-7/9	山形N1号	50	38	3	9	76
			あのみり ^w	50	28	1	21	56
	2021	6/14-6/28	山形N1号	30	27	1	2	90
			あのみり ^w	30	29	1	0	97
ハウス ^x	2020	6/29-7/6	山形N1号	20	4	0	16	20
			P C筑陽 ^w	20	20	0	0	100
	2021	5/18-5/20	山形N1号	23	19	4	0	83
			P C筑陽 ^w	22	22	0	0	100
		6/16-6/18	山形N1号	23	14	4	5	61
			P C筑陽 ^w	23	22	0	1	96

調査方法：開花・開蒴前に花柱を折り取り、その後の肥大した果実を調査。

z：正常果/調査花数

y：1区10株2反復調査（2020年は5花/株調査、2021年は3花/株調査）

x：1区5株2反復調査（4～5花/株調査）

w：単為結果性を有するとされる品種

表2 ハウス早熟栽培及び露地栽培における収量性

栽培	調査地点 ^z	年	品種・系統	収穫期間	総収量		商品果		a当たり 収量 ^a	商品 果率	一果重	障害 果率 ^y
					個数 (個/株)	重量 (kg/株)	個数 (個/株)	重量 (kg/株)				
ハウス	園芸研	2021	山形N1号	3/17～7/8 ^w	259	6.2	196	4.1	412	75.8	20.8	13.1
			薄皮丸なす	8/6～9/29	266	5.6	146	2.9	289	55.0	19.6	37.6
露地	園芸研	2022	山形N1号	6/27～10/11	218	5.3	147	3.1	260	67.4	21.1	18.8
			梵天丸		205	5.0	140	3.0	246	68.3	21.1	17.1
		2023	山形N1号	6/19～10/6	340	8.7	217	4.5	375	64.0	20.8	22.9
			梵天丸		338	7.8	224	4.5	371	65.6	20.0	26.0
露地	置賜産研	2022	山形N1号	6/23～9/30	252	5.7	211	4.3	308	83.7	20.5	7.1
			梵天丸		267	6.0	221	4.4	316	82.8	20.1	8.2
		2023	山形N1号	6/10～9/29	339	8.2	265	5.5	391	78.2	20.8	10.3
			梵天丸		400	9.3	313	6.3	447	78.3	20.1	12.0

z：園芸研；寒河江市島、置賜産研；南陽市宮内

y：奇形果（曲がり）、着色不良、裂果等

x：園芸研ハウス栽培；畝間1.8m×株間0.55m(101株/a)、園芸研露地栽培；畝間2.0m×株間0.6m(83株/a)、置賜産研露地栽培；畝間2.0m×株間0.7m(71株/a)で換算

w：7/8に各分枝に1芽ずつ残して更新剪定を実施（8/5まで収穫を中断）

※いずれも1区5株2反復を調査

表3 漬物加工業者の評価

漬物の種類	加工業者の評価
浅漬け	形がきれいで、漬け上がりの色が濃い。「梵天丸」より皮が軟らかく、果肉がち密でしっかりしており、歯ざわり・食感が良い。浅漬けの適性がある（4社）。
麴漬け	麴漬けにした時の色が良く、果肉がち密で食感が良い。食味良好で、麴漬けの適性があり、商品化したい（2社）。
ペそら漬け	食感、食味ともに良く、加工適性がある。色が良い点を活かすことは出来ないが、新しい一口サイズのペそら漬けとして提案できる（2社）。
粕漬け	粕漬け(古漬)にしても、歯切れの良い食感があり、食味良好。あっさり粕漬けでは、ナス色も残り外観がきれいで、粕漬けの加工適性もある（2社）。

【栽培概要】

・作 型：ハウス早熟栽培(2021 年)

- ア 定 植 日：2/24
イ 台木品種：「カレヘン」
ウ 植栽様式：株間 0.55m、畝幅 1.8m、1 条植え
エ 仕立方法：3 本仕立て後、半放任
オ 施肥(N-P₂O₅-K₂O 各成分 kg/a)：2.2-1.8-1.6
カ 加 温：定植後、保温カーテン及びトンネル被覆（～3/31）を実施し、定植～3/10 までは最低気温 15℃、3/30 までは最低気温 13℃設定で加温した。
キ 更新剪定：7/8 に各分枝に 1 芽ずつ残して更新剪定を実施（8/5 まで収穫を中断）。
ク 着果管理：「薄皮丸なす」のみ週 3 日、開花時に 4-CPA 液剤を散布。

・作 型：露地栽培(2022 年、2023 年)

- ア 定 植 日：（園芸研）5/19、5/10 （置賜産研）5/19、5/18
イ 台木品種：「トルバム・ピガー」
ウ 栽植様式：株間 0.6～0.7m、畝間 2.0m、1 条植え
エ 仕立方法：3 本仕立て後、半放任
オ 施肥(N-P₂O₅-K₂O 各成分 kg/a)：（園芸研 2022 年）5.7-4.1-4.2、（園芸研 2023 年）7.8-2.4-2.5
（置賜産研 2022 年）1.8-1.6-1.5、（置賜産研 2023 年）1.8-1.5-1.5

（山形県農業総合研究センター園芸農業研究所・バイオ育種部）

【その他】

予算区分：県単

研究期間：2012～2023 年度

研究担当者：桐原美結、齋藤裕太郎、森山拳斗、高品善、末野穂乃香、白田純也、小林賢太郎、安孫子裕樹（山形県農総研セ園農研）、高橋玲子（山形置賜農技普課産地研）、宮武宏治（農研機構 野花研）

発表論文等：

- 1) 桐原ら（2024）園学研、23 別 2:386
- 2) 齋藤ら「山形 N 1 号」品種登録出願公表第 37353 号（2024 年 6 月 17 日）